

平成26年度第2回鳥取県和牛産肉能力検定委員会概要

日 時 平成26年9月16日(火)午後1時30分～午後4時00分
場 所 東伯郡琴浦町松谷606 鳥取県畜産試験場
出席者 河本委員、相見委員、長谷川委員、門木委員、高橋委員、天野委員、木嶋委員、
宮崎委員、松島委員、山本委員、谷口委員、中山委員
畜産課 野儀係長
事務局 畜試 岡垣場長、田淵室長、小江研究員

内容

1 協議事項

議題1 平成26年度直接検定第6群「飛良柴」及び「元花江」の選抜・保留について
→「飛良柴」「元花江」を直接検定合格とする。

説明等

「飛良柴(ひらしば)」

- ・平成25年9月9日生。血統は「飛良美継-百合茂-福栄」。倉吉市産
- ・発育+0.6σ。美点は発育、体伸、尻、資質、肋張り。惜しい点は肩端、肩後充実、肘後、やや蹄厚さ。
- ・母牛の産子成績は「平忠勝」「平忠勝」「安照鶴」去勢、去勢、去勢産子で枝肉重量483.9kg、283.7kg、595.0kg、ロース芯面積48cm²、55cm²、74cm²、BMS No.4、6、6。2産目の産子の枝肉重量が小さいのは25ヶ月出荷で枝肉の割除があったため。
- ・優良遺伝子領域は枝肉重量2領域、ロース芯面積1領域、BMS 2領域保有。
- ・DG0.72と良くないのは5月4日に骨折した影響が出ている。現在は完治している。
- ・期待育種価は父である「飛良美継」の育種価が未判明であるため、算出できていない。

「元花江(もとはなえ)」

- ・平成25年8月17日生。血統は「安福久-第1花国-安福165の9」。琴浦町産
- ・発育-0.9σ。美点は前駆幅、背腰幅、尻幅、内腿。惜しい点は発育、体深、体伸、尻型。
- ・優良遺伝子領域はBMS 2領域保有。
- ・期待育種価は母である「もとはな2」の産子成績がないため、算出できていない。
- ・「もとはな2」に「安福久」を交配して作った雄はMSHRの遺伝病を保因しており、唯一、「元花江」のみ遺伝病フリーだったという背景がある。

意見等

- 「飛良柴」の発育は骨折していたので仕方ない。昔の「平茂勝」に似ている。体型的には問題ない。個人的には選抜してよい。今後は「第20平茂」の血が入っていない気高系の種雄牛造成も行って欲しいと思う。「元花江」は体型的に肥育牛らしくて良いし、資質も良い。種畜としては疑問視するところもある。「安福久」母体に交配してしまうとリスクが高い。「安福久」の雌牛はどのくらいいるのか。
→「安福久」の雌牛は正式な数字は分からないが、ここ3年くらいで、かなり増えてい

る。

→「元花江」が選抜されて試験種付け牛になった場合は、注意喚起していく。「百合白清2」の母体につけるには良いと考えている。

○繁殖雌牛の観点から意見を言うと、どこをみても「百合茂」母体が増えている中、種雄牛も「百合茂」ジュニアも増えている。これからは「飛良柴」のような血統の種雄牛を造っていくべき。試験場などの公的な場所で作るべき。

○「飛良美継」は岩手県の人が鳥取県には鳥取らしい牛がいるかと聞かれ、この牛を使ってみてはどうかということで話があった牛。但馬も糸桜も入っていない血統で、元々は西伯の血統の濃い牛で遺伝的多様性もある。そのような背景があり、使っている。ただし、残念だったのは、「平茂勝」の肩をさらに悪くした牛ばかりが出てきている点。そういう中ではこの「飛良柴」は肩は良い方だと思っている。しば系は元々肩の悪い系統ではないので、この牛なら交配していけると思うし、全共4区に使えるのかなと考えている。最近にはない雄の輪郭の鮮明さも感じる。また、「平茂勝」も「第20平茂」の血も入っていない牛ということで、現在岩手県の「山根雲」を育種組合としての取組として交配しているところ。「平茂勝」も但馬も入っていない牛なので、この種雄牛で雄牛を造っていけば鳥取県にしかいない種雄牛ができるのではないかと考えている。なぜ、岩手の育種組合が造ったものを使っているかということ、遺伝的多様性もあるが、岩手県が飼いやすいということとサシがなくても美味しい牛を造るということを狙って種雄牛を造成しているところ。サシを追求している地域よりも、経営の安定につながるといった話しも聞いている。そのような考え方の中で、鳥取県にしかいない遺伝的多様性を持った牛を造成し、残していくことは育種組合として大事なことだと思っている。

○「元花江」についてだが、県にいる但馬の強い牛といたら2頭くらいで、多いわけではない。確かに種付けする母体のことを考えたら、怖い面もあるが、百合茂や他の母体もいるので使い方なんだろうと思う。「もとはな2」の子を残さないわけにはいかないと思う。

○他に「もとはな2」の子がいないのでしょうがないと思う。

◎「飛良柴」は遺伝的多様性、しば系の再構築という観点から選抜ということによろしいか。

→異議なし。

◎「元花江」は「もとはな2」の産子ということもありますし、他の全兄弟が遺伝病で雄牛になれていないというのがありますので、今後の期待も込めて選抜ということによろしいか。

→異議なし。

議題2 現場後代検定終了に伴う「百合白清2」の選抜・保留について

→「百合白清2」を現場後代検定合格とする。

説明等

- ・平成22年1月23月生。血統は「百合茂－白清85の3－平茂勝」。
- ・琴浦町産ET産子

- ・直接検定 発育+1.0σ、DG1.40。
- ・母牛「みどり」の産子成績は「百合茂」「百合茂」「勝忠平」「百合茂」「平茂晴」の雌、雌、去勢、去勢、去勢で枝肉重量476.2kg、546.6kg、522.3kg、541.7kg、466.4kg、ローズ芯面積72cm²、83cm²、72cm²、70cm²、67cm²、BMS No.11、11、12、11、11。
- ・現場後代検定18頭の成績。枝肉重量510.5kg、ローズ芯面積68.7cm²、バラ厚8.7cm、皮下脂肪2.5cm、歩留まり75.5%、BMSNo.9.2。
- ・光ファイバによるオレイン酸割合は53.7であり、脂肪の質も期待できる。
- ・現場後代検定合格種雄牛の肥育成績比較では、枝肉重量、ローズ、BMS、4等級以上発生率、全ての項目においてこれまでの検定合格牛を上回っている。育種価も特にBMSにおいてダントツの数字であった。
- ・枝肉写真をスライドで提示。枝肉のボリューム感がある。ローズ、カブリ、広背筋が大きく、まんべんなくサシが入っているのが特徴である。生体は腰から肉が盛り上がってくる。ももの張りもすごい。
- ・検定牛の後半に出荷された分から、ももの脂肪を1枚剥いで、もも抜け評価をしている。もも抜けも良好。

意見等

- 県外からの問い合わせがあると聞いているが、県外に出ているのか。
→今現在、県外には販売していない。問い合わせは多数来ている状況
- 枝肉写真、生体写真でパンフレットを作って頂きたい。どれもコピーしたような斉一性のある枝肉断面なので、写真集を作ってはどうか。
→ポスター作成は検討している。
- 県のホームページも更新してほしい。
- ポスターは、早く作ってほしい。
- パンフレットも作成してほしい。
- 「百合白清2」を使って、鳥取県の牛をどう増頭していくかを今から考えること。糸北鶴の時のように売って、それで終わりということにはならないように。早いうちから、どんどん保留するような事業を考えて欲しい。
→「百合白清2」が出来たということで、保留事業、オレイン事業の拡充を考えている。来年度増頭につながる事業を考えていきたい。
- 「百合白清2」は産肉能力以外にも、もうひとつ良い点は飼いやすいこと。ほとんど病気がないし、もの食いが良い。繁殖性はこれから見ていくが、非常に飼いやすくて、すくすく育つというのはPRできるところだと思っている。
- ◎「百合白清2」については、選抜ということではよろしいか。
→異議なし。

次回開催予定

10月下旬または11月上旬

内容

- 平成26年度直接検定第1群の選抜・保留について
- 1月からの試験種付けについて

ほか